

(抜粋仮訳)

2008年9月15日

国防総省グアム軍事計画報告書

提出先：米国下院軍事委員会議長アイク・スケルトン

報告者：海軍長官ドナルド・ウインター

グアムにおける米軍計画の現状

## 1. プロセス

現在、空軍と海軍はグアムに大規模なプレゼンスを有しており、任務遂行上、グアムの広大な土地や施設を管理している。今後グアムの米軍がさらに強化されることから、現在国防総省は、「グアム統合軍事マスター計画」を策定中である。同マスタープランには、移転してくる部隊の構成やそれに伴う関連施設が記載される。

## 2. 強化される軍事力の規模と構成及び家族

表2 - 1は、各軍の強化と隊員の増加数、表2 - 2は、移転が計画されている部隊の詳細である。これらの部隊の移転時期は、現在同省内で検討中の施設建設スケジュールによる。スケジュールが承認されれば、さらに細かい隊員数が会計年度ごとに報告できるであろう。

表 2 - 1 : 増加する隊員数とその家族

軍	主要要素(Major Element)	隊員数	家族数
空軍			
	諜報・監視・偵察攻撃機動部隊 (ISR Strike Task Force)	120	210
	一時的駐留	1780	
海軍			
	原子力空母一時的駐留 (CVN Transient)	5600	
海兵隊			9000
	司令部要素 (CE) (Command Element)	3050	
	地上司令部要素 (GCE) (Ground Command Element)	1100	
	航空司令部要素 (ACE) (Aviation Command Element)	1850	
	兵站司令部要素 (LCE) (Logistics Command Element)	2550	
	その他海兵隊員一時駐留	1200	
	その他の軍関係者一時駐留	800	
	施設支援スタッフ	70	
陸軍			
	対ミサイル防衛機動部隊 (AMD Task Force)	630	950
合計	一時駐留を除く	11,370	10,160
* 一時駐留(Transients)とは、一時的にグアムへ派遣される隊員・軍関係者である。 P S C (常駐部隊) 隊員が受け取る利益 (給付金・手当) の受給資格はない。			

表 2 - 2 : 追加される部隊の詳細

軍	主要要素	部隊
海兵隊	司令部要素	<b>(3,050 人)</b>
		第 7 通信大隊 (7 <sup>th</sup> Communications Bn) (ハンセン)
		第 3 情報大隊 (3 <sup>rd</sup> Intelligence Bn) (ハンセン)
		第 3 海兵遠征軍司令部群 ( MEF Headquarters Group) (コートニー)
		第 3 海兵遠征軍音楽隊 ( MEF Band)
		第 5 空海射撃リエゾン隊 (5 <sup>th</sup> Air Naval Gunfire Liaison Company) (ハンセン)
		偵察部隊 (Force Reconnaissance Elements)( シュワブ?)
		施設支援 (Installation Support) ( 70 人)
	地上司令部要素	<b>(1,100 人)</b>
		第 3 海兵師団司令部 (3 <sup>rd</sup> Marine Division HQ) (コートニー)
		第 3 海兵師団司令部大隊 (3 <sup>rd</sup> Marine Division HQ Bn) (コートニー)
		第 1 2 海兵砲兵連隊司令部 (12 <sup>th</sup> Marine Artillery Regiment HQ) (ハンセン)
	航空司令部要素	<b>(1,850)</b>
		第 1 海兵航空団司令部 (1 <sup>st</sup> MAW HQ) (フォスター)
		第 1 海兵航空司令部中隊 (MWHS-1) (フォスター)
		中ヘリ中隊 (HMM)
		第 1 8 海兵航空管制群司令部 (MACG-18)( HQ )( 普天間)
		第 1 8 海兵航空通信中隊 (MWCS-18) (フォスター)
		第 4 海兵航空管制中隊 (MACS-4) ( 普天間)
		第 2 海兵航空支援中隊 (MASS-2) ( 普天間)
		第 1 8 海兵戦術航空管制中隊 (MTACS-18) ( 普天間)
		ステインガーバッテリー ( 普天間のステインガーバッテリーは、2007年9月28日に解散)
		第 1 7 海兵航空支援群司令部 (MWSG-17) (HQ) (フォスター)
		海兵航空支援中隊分遣隊 (MWSS Det)
	兵站司令部要素	<b>(2,550)</b>
		第 3 海兵兵站群司令部(3 <sup>rd</sup> Marine Logistics Group HQ)
		第 3 5 戦闘兵站連隊分遣隊(Combat Logistics Regiment 35 Det)
		第 3 7 戦闘兵站連隊(Combat Logistics Regiment 37(-))

		第3戦闘兵站連隊分遣隊 (Combat Logistics Regiment 37(-))
		第9工兵支援大隊 (9 <sup>th</sup> Engineer Support Bn(-))
	一時駐留	(1,200 人)
		歩兵大隊 (Infantry Bn)
		砲兵中隊 (Artillery Bty)
		混成中隊 (Composite Squadron)
	その他一時駐留	米海兵隊、国防総省、同盟国軍(800 人)
空軍		
	ISR 攻撃機動部隊	
		グローバルホーク (Global Hawk)
		爆撃機部隊
		給油機部隊
	NW フィールド訓練	
		レッドホース工兵中隊
		コマンドウォリア
		戦闘通信隊
	一時駐留	B52, B1, B2 中隊
陸軍		
	AMD 機動部隊	
		HQs/HHB
		ターミナル高々度防空中隊 (Terminal High Altitude Air Defense Btry)
		地上発射新型中距離空対空ミサイル / アベレージ中隊 (Surfaced-Launched Advanced Medium Range Air-to-Air Missile/Average Bty)
		歩哨 (Sentinel Section)
		直接支援整備部隊 (Direct Support Maint Co)
海軍		
	原子力空母 (一時)	艦隊部隊 (Ship's Company)
		空母航空団 (CVW)

\* 上記の基地名は訳者が挿入

### 3. インフラ要件

海兵隊：太平洋軍の要求と海兵隊の基本的なスタンスが整合性をもつ形で、第3海兵遠征軍は、主に沖縄、グアム、ハワイの3箇所に、バランスのとれた形で基地を配備する。様々な場所での訓練が、第3海兵遠征軍の分散された部隊の相互運用性を維持するだろう。第3海兵遠征軍の司令部要素はグアムへ移転するが、兵站支援ハブ（拠点）は、沖縄に留まるだろう。

海兵隊のニーズを満たす施設は、管理、倉庫、訓練、売店、格納庫、そしてクオリティオブライフ関連の施設である。米政府が支出する軍事建設（ミルコン）と日本政府の分担金で賄う施設のための、基本的な施設要件と具体的な場所は、現在検討中である。国防総省の教育施設や兵站の要件も現在検討している。施設のおおよそのタイプと規模は以下の通りである。

表3 - 3 海兵隊施設要件

施設のタイプ	施設カテゴリー	要件（平方フィート）
運用（作戦）	100	420,000
整備	200	1,200,000
整備格納庫	200	130,000
物資 / 倉庫	400	2,400,000
医療 / 歯科	500	60,000
管理	600	1,300,000
コミュニティー	700	1,600,000
訓練	1711	210,000
<b>計</b>		<b>7,320,000</b>
家族用住宅		3,530 戸
独身下士官宿舎		3,400 部屋
独身幹部宿舎		400 部屋

## 6. 最新の財政計画

グアム移転に関する最新の財政計画は、09会計年度国防総省の大統領予算に計上されている。

表6-2 軍事建設歳出予算計画プロファイル 09-13会計年度

軍	FY09 (百万ドル)	FY10 (百万ドル)	FY11 (百万ドル)	FY12 (百万ドル)	FY13 (百万ドル)
米国海兵隊軍事建設、 海軍(海兵隊)	28.0	365.0	466.0	567.0	567.0

\* 09年度大統領予算

上記の更新版は10年度大統領予算に盛り込まれることが、軍事建設費、退役軍人対策費、関連歳出予算案を含む上院報告書(110-428)で指示されている。

在沖海兵隊のグアム移転に関して、グアム統合計画室と日本政府は、どの施設をどの国が財政支援するのか協議中である。また、先に述べたように、正確なプロジェクトやその時期についても検討中である。事業実施の概念的な全体像と、日米両政府が財源を投入し近々行われる事業についても検討している。

### 訳者注

2006年7月太平洋軍作成「グアム統合軍事開発計画」と本報告書の海兵隊の兵力構成の比較

グアム統合軍事開発計画(2006年7月)		国防省グアム軍事計画報告書(2008年9月)	
隊員総数約 9,700 人	PSC 7,200 人 一時 2,500(UDP 含む)	隊員総数 10,550 人	PSC 8,550 人 一時 2,000 人
司令部(CE: Command Element) 2,800 人		司令部(CE: Command Element) 3,050 人	
地上戦闘要素(GCE: Ground Combat Element) 2,900 人		地上司令部要素(GCE: Ground Command Element) 1,100 人	
航空戦闘要素(ACE: Air Combat Element) 2,400 人		航空司令部要素(ACE: Air Command Element) 1,850 人	
兵站支援要素(LSE: Logistic Support Element) 1,550 人		兵站司令部要素(LCE: Logistic Command Element) 2,550 人	

\* 本報告書では、一時駐留の部隊を歩兵大隊、砲兵中隊、混成中隊としている。